2019年度
被災者支援活動

認定NPO法人レスキューストックヤード
常務理事　浦野愛

佐賀県武雄市の様子

震災がつなぐ全国ネットワーク
『水害にあったときに～浸水被害からの生活再建の手引き』

●どこまでいつまで乾かせばいいの？

●消毒の方法が分からない

●床下浸水は放っておいていいの？

●り災証明書ってなに？

●フローリングだから床板が外せない

●悪臭とカビが気になる

●業者が来てくれるまでの応急修理。自分でどこまでできる？いくらかかる？

●田畑に泥、農機具が全滅

●自営業で機材が浸水　　など

佐賀県への支援

母が以前住んでいた家の片付けにきたの。床上浸水でした。知り合いから「水害にあったときに」を紹介してもらってすぐに申し込みました。これから自分が何をしなければいけないのかが書いてあるから、これを読んで、早めに行動を取っています。こんないいもの、近所の人にも配れるといいと思って。一人暮らしのお年寄りも多いから。うちは、土日に男手を確保して一気に片付けました。でもここはしばらく水が引かなかったからその間に臭いがすごくなって。川のヘドロが一緒に流れてきたみたいで、ヌルヌルしてるの。ガタついて扉も空きにくくなってるし。ただ、シャワーやトイレ、台所は何とか使えるので、まだ助かってます。雨が降ったりやんだりで、なかなか乾かないのよね。母の帯もとてもいいものだから捨てるのが惜しくて。とりあえず洗って干しているの。床下とか柱などの消毒はどうしたらいいかしら？

（50代・女性）

被災者の声
たった一人で片付け続ける男性

「あそこの家ば、手伝ってやって！」と近所の人に呼びとめられて訪ねてみると、疲れきった表情でその男性が出てきた。その50代の男性は、ずいぶん前に廃業して納屋に積んであったた大量の陶器が泥をかぶったので処分してほしいと申し訳なさそうに言う。捨てるのはもったいないので、ボラセンが引き取って、後日陶器市のイベントで活用しようという事になった。

話しを聞くと、高齢の母親は水害の後すぐに姉の家に避難させて、今は一人で暮らしているという。「食事はどげんしとっとですか？」と故郷の博多弁で話かけると、「一人やけん、あんまり食べる気がせんでから、、、最近あんまり寝れんでね」という。

そして服の話しに。「近所の人が亡くならしたんやけど、喪服も全部泥かぶっとうけん、着るもんがないと、通夜にはこの格好では行けんし、、」と寂しげに語っていた。

被災者の声
子育て、仕事、復旧作業で疲弊する母親

今回の水害では、若い子持ちの家庭の置いてけぼり感がすごく、お母さんたちが取り残されており、ちゃんとご飯が食べられていない現状があります。水害でいろいろ流されているし、片付けで疲れてるし、台所もダメになっているのに、若いし、元気で、働けて、お金あるから大丈夫でしょ？と。

(床上浸水)

オール電化で台所使えず。

市から紹介された市営住宅はアレルギーある子どもは住めないため、子どもを安心させるために自分でアパートを探した。２日間遊び場で子どもを預かってもらい、アパートにやっと最低限の荷物をいれた。

被災者の声
子育て、仕事、復旧作業で疲弊する母親

(床上浸水)

住めない家のローン、新しく借りたアパート代、お金がいくらあっても足りず将来への不安ばかり。

どこまで支援に甘えていいのか分からない。

引っ越した負い目から支援は受けていない。

(床上浸水)

隣町の実家に避難し、毎日子どもたちを小学校と保育園に送迎。カセットコンロしかないので、ご飯はずっとカップ麺とアルファ米。疲れてご飯を作るまではいきつかない。

口内炎がひどい。家族みんな野菜不足。

生活支援への移行①
家の相談会

生活支援への移行②
訪問型炊き出し

生活支援への移行③
足湯ボランティア

台風19号・長野市の水害

地元との関わり

●「長野県災害対策本部ボランティア班・NPO支援チーム」として避難所支援を実施

●「長野県災害時支援ネットワーク情報共有会議」に参加し、情報共有・協力者募集

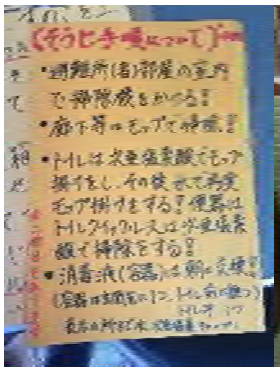
避難所への支援

●指定避難所の生活環境のチェック

●長野県・市の行政担当者へのレクチャー

●自主運営の機運づくりに関する相談・助言

豊野区事務所自主避難所
生活環境の改善



避難所の食生活

豊野区事務所自主避難所支援
要配慮者健康チェック・見守り

RSY専門職ボランティアの活躍

豊野区事務所自主避難所支援
避難所閉所・新生活に向けた支援

お別れ会にお招きいただきました

・小さな子どもがいるので、泣くと皆さんに迷惑がかかると思ってとても申し訳ない気持ちだった。でも、皆さんが本当にやさしくしてくれて。子どもも最初、「こわい」「大丈夫？」の二言しか言わなかった。でもだんだん元気になって、この1か月でびっくりするほど言葉が増えた。皆さんが温かく接して下さったおかげ。本当にありがとうございました。
（30代・女性）

・水害当日はずっと山に避難していた。ようやく指定の避難所に着いても、「もう一杯で入れない」と断られたり、あてにしていた施設に鍵がかかっていて入れず途方に暮れた。でもその時、近所の人からここを紹介してもらいやっとたどり着くことができた。本当にありがたかった。直後はものすごく気を張っていて、笑うことも泣くこともできなかった。でもここで皆さんと過ごし、ボランティアの方と接しているうちに、ようやくそれができるようになった。
（60代・女性）

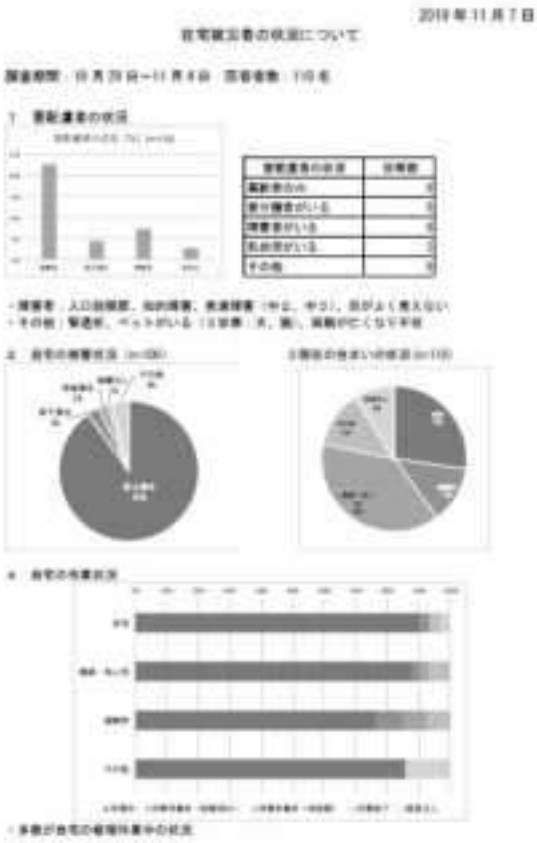
建設型仮設住宅への訪問

みなし仮設・在宅避難者訪問

豊野区区長・善財さんの話
在宅の人達の生活が心配・・

およりなして！あったか食堂

10月23日～11月末　17回・約5,000食提供



2019年11月7日

自宅被災者の状況について

調査期間：10月29日～11月4日　回答者数：110名

1　自宅被害の状況

自宅被害の状況	回答数
倒壊のみ	[illegible]
家や倒壊がいる	[illegible]
倒壊家がいる	[illegible]
私が死がいる	[illegible]
その他	[illegible]

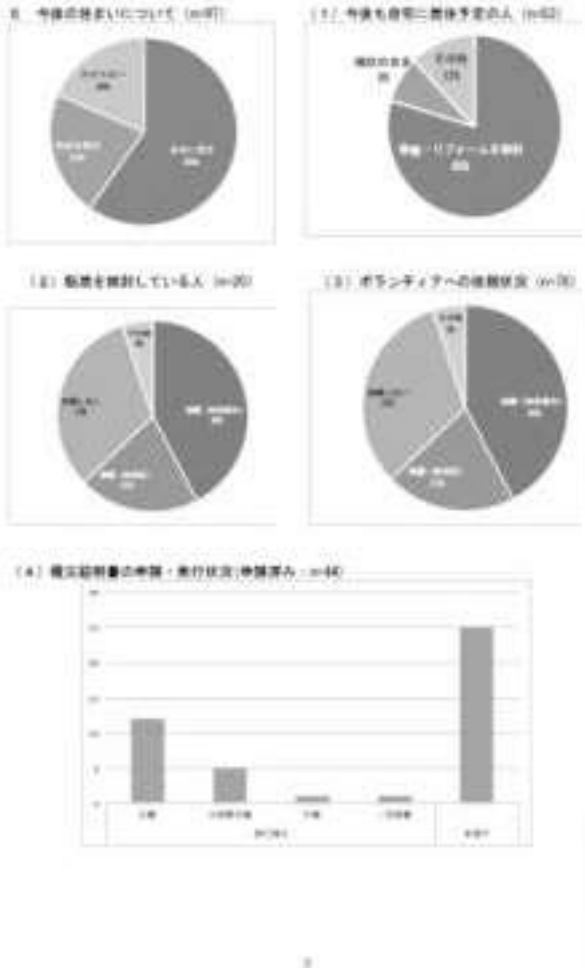
・倒壊者：入口倒壊、他の倒壊、倒壊倒壊（やむ、やつ）、思がよく考えない
・その他：擁護者、ペットがいる（注意書：犬、猫）、倒壊がでくなり不安

2　自宅の倒壊状況（n=100）

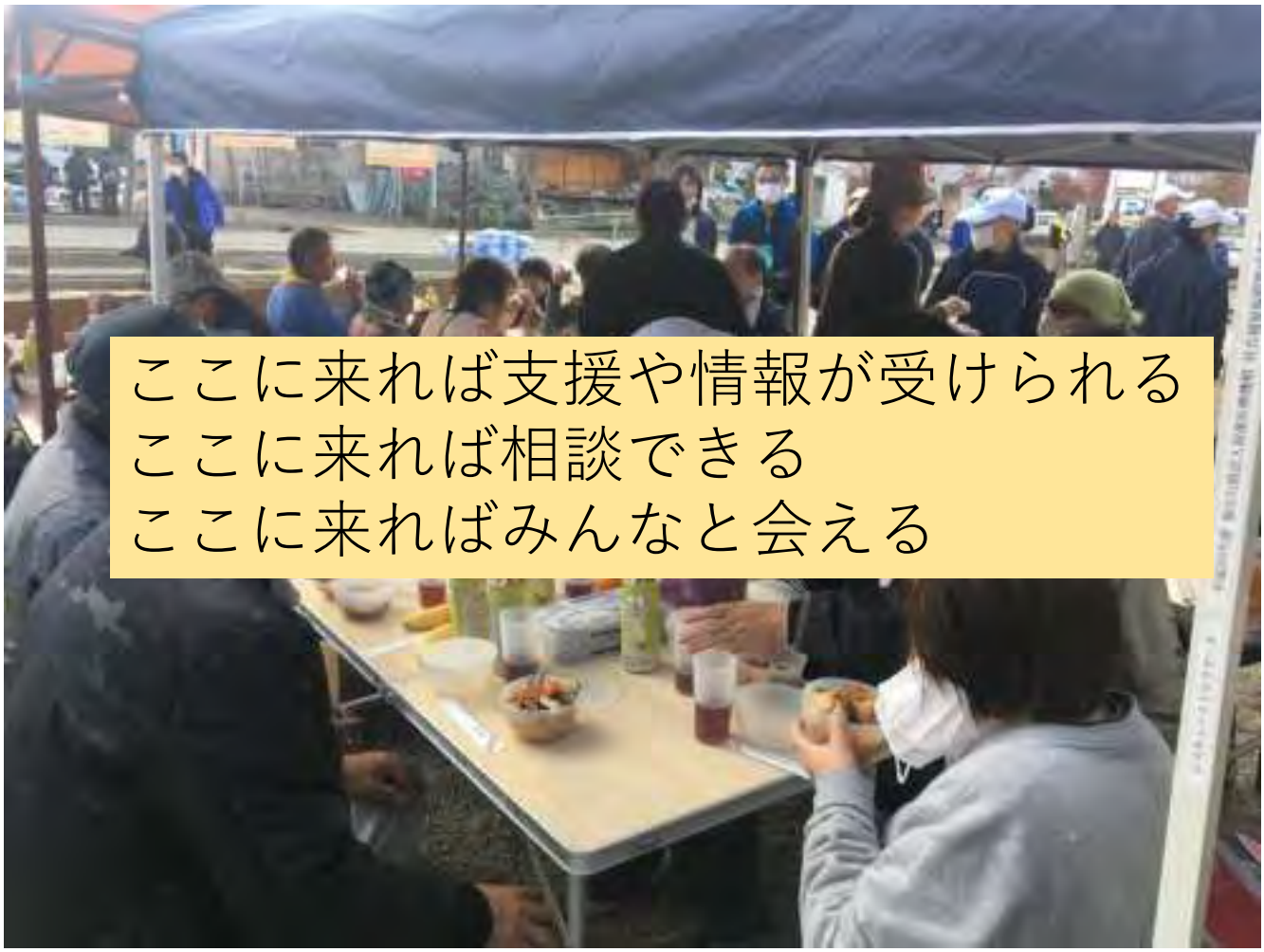
3　倒壊の住まいの状況（n=10）

4　自宅の修繕状況

・多数が自宅の修繕作業中の状況



出てこられない方を見逃さない



まちの縁側　ぬくぬく亭
12月12日オープン

【協力団体】

豊野地区住民自治協議会／地縁団体豊野区／社会福祉法人賛育会／とよの被災者支援チーム「集楽元快」／豊野高等専修学校／長野市災害ボランティア委員会／長野市社会福祉協議会／長野県社会福祉協議会／長野県災害対策本部ボランティア班・NPO支援チーム／災害NGO結／認定NPO法人レスキューストックヤード

みんなが立ち寄りやすい環境を作る

- ●当面毎日オープン
  10:00～17:00
- ●サロン、食堂、足湯
  子どもの学習支援など
- ●地元の社会福祉法人スタッフが常駐
- ●地元内外の支援団体が活動をサポート
- ●週1回ミーティング

リンゴ農家の被害

今後の支援について

●まちの縁側ぬくぬく亭の運営サポート

●足湯・食事会・サロン活動プログラムの提案・実施

●在宅・仮設住宅転居者への訪問

●被災地同士、よそ者との交流

●次の災害に向けた取り組み、体験者からの学び